

2年 単元名「生きものといっしょに～海の生きものとなかよし～」（生活科 里海に関する時間8時間）

～海に親しむ～

1 単元設定の理由

海の生き物を観察したり、飼育したりする活動を通して、身近な海や生き物への親しみや関心を持たせるとともに、生命の不思議さを感じ、それらを大切にしようとする心情を持つことができるようにする。

2 単元目標

- ・身近な海の生きものを探したり、飼ったりする活動を通して、育つ環境・変化・成長の様子に関心を持ち、海の生きものと親しみ、大切に育てることができるようにする。
- ・海の生き物と継続的な関わりを通して、それらが成長していることや生命を持っていることを実感できるようにする。

3 単元の評価規準

生活科への 関心・意欲・態度	活動や体験についての 思考・表現	身近な環境や自分についての 気付き
身近な生きものに関心を持って関わり、生きものに親しみを持ち、大切にしようとしている。	生きものの育つ場所、変化や成長について考え、世話の仕方を工夫したりして、それらを表現することができるようにする。	生きものの世話を通して、その特徴、育つ場所、変化や成長の様子に気付くようにする。

4 単元の指導計画

時	学 習 活 動	指 導 上 の 留 意 点
1 2	海にいる生きものを知る。 〽 ・見たことのある海の生きものを話し合う。 ・知っている海の生きものについて図鑑で調べる。	・小木の海や水族館などで見た生き物について発表し、これからの学習に興味・関心・意欲を持たせる。
3 5	海の生きものを観察、採取する。 〽 ・のと海洋ふれあいセンターの「屋外タッチプール」で、生きものを見つけ、採取する。 ・採取した生きものを観察し、名前や特徴を教えてください。	・事前に、どのような生きものがあるか予想していく。 ・救命胴衣、マリンスーツを着用し、安全に気をつけるようにする。
6 7	海で見つけた生きものについて振り返る。 〽 ・海にはどんな生きものがいたのか、観察メモや写真をもとにグループごとに振り返る。 ・見つけた生きものを「いその生きものカード」にまとめ、特徴（大きさ・色・手触りなど）をメモする。	・採取時の磯の写真を拡大提示し、観察した場所や採取した生きものを思い出せるようにする。 ・生きもの名前だけでなく、特徴も書くようにする。
8	生きものカードを「いその生きものマップ」に貼る。 ・「いその生きものカード」を発表し、見つけた場所と特徴を明らかにしながらマップに貼っていく。 ・マップを見て気付いたことを交流し合う。	・グループごとに見つけた生きものを「海の生きものマップ」に貼る。 ・今後の学習の見通しを持たせる。

外部連携／教材等

- ・能登里海教育研究所 浦田 慎先生
- ・のと海洋ふれあいセンター

【資料】・能登里海教育研究所『海の観察ガイド』 ・小学館『水の生物』

5 活動の様子



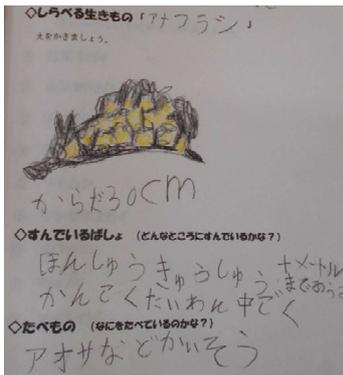
海の生き物観察①



海の生き物観察②



海の生き物観察③



生きものカード



海の生きものマップ

6 成果・課題

- 実際に海（磯）に出かけ、海の生きものを観察したり採取したりすることで、どこにどんな生きものがすんでいるのか、自分の目で確認することができ、海への親しみを持つことができた。
- 観察した生きものを「海の生きものマップ」としてまとめたことで、2学期の学習の見通し（海の生きもの水族館づくり）や海の生きものへの興味、関心を持つことができた。
- ▲磯観察の学習は、移動時間も含めて3校時設定したが全体的に窮屈であった。磯での観察時間やレクチャールームでの学習時間をもう少し長くすれば、海の生きものに対する興味・関心や理解がより深まったように思う。

7 子どもの感想

- ・みんなで海の生きものをつかまえてたのしかったです。ぼくは、モクズガニをつかまえたら、たまごをいっぱいもっていたのでびっくりしました。
- ・アメフラシをさわったら、むらさき色のえきがいっぱい出てきたのでびっくりしました。いろいろな海の生きもの名まえがわかったからべんきょうになりました。
- ・イソギンチャクにゆびを入れたら、ひっぱられて気もちよかったです。フナムシはすばやくうごいていたのでつかまえにくかったです。
- ・アメフラシをさわるとぷにぷにして気もちよかったです。ヤツデヒトデをさわるとすこしちくちくしていました。ホンヤドカリはあさいところからつかまえやすかったです。
- ・ムラサキウニは、ちくちくしていたからこわかったです。でも、いろいろな生きものをつかまえてたのしかったです。